

令和2年度 相模原市総合教育会議

日 時 令和2年11月13日(金曜日)午前10時00分から午前11時31分まで

場 所 相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室

日 程

1.開 会

2.会議録署名委員の決定

3.議 事

社会の変化に対応したこれからの教育について

4.閉 会

出席者(7名)

市 長 本 村 賢太郎

教 育 長 鈴 木 英 之

教育長職務代理者 小 泉 和 義

委 員 平 岩 夏 木

委 員 岩 田 美 香

委 員 宇田川 久美子

委 員 白 石 卓 之

説明のために出席した者

副 市 長 隠 田 展 一 教 育 局 長 小 林 輝 明

教 育 環 境 部 長 井 上 隆 学 校 教 育 部 長 細 川 恵

生 涯 学 習 部 長 大 貫 末 広 教 育 環 境 部 参 事 兼 学 務 課 長 佐 藤 洋 一

学 校 保 健 課 長 峰 岸 康 弘 学 校 教 育 課 長 篠 原 真

教 育 セ ン タ ー 所 長 浅 倉 勲 生 涯 学 習 部 参 事 兼 生 涯 学 習 課 長 太 田 修 二

総 合 政 策 部 参 事 兼 政 策 課 長 榎 本 好 二

事務局職員出席者

教育局参事
兼教育総務室長

佐野 強 史

教育総務室担当課長

藤 波 健 二

教育総務室主事

山 本 健 太

開 会

本村市長 ただいまから、令和2年度相模原市総合教育会議を始めさせていただきます。

社会の変化に対応したこれからの教育について

本村市長 本日の会議録の署名についてでございますが、平岩委員と白石委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

さて、昨年度の総合教育会議におきましては、新たな大綱といたしまして、第2次相模原市教育振興計画を基本に、誰一人取り残さない教育を大切にしていきたいという思いを、会議の中で教育委員の皆さんと共有をさせていただきました。

本市の教育が目指す人間像として、「共に認め合い ^{いま}現在と未来を創る人」ということがございまして、今日、こうしたことを原点に教育施策に取り組んでいこうということがあります。

コロナ禍でありますし、超高齢化社会でスマート社会という中で、社会の情勢も日々予想がつかない速さで進んでおりまして、今般GIGAスクール構想など改革的な推進や、昨年度の会議以降、教育を取り巻く環境の先行きが読めない状況にあります。学校の先生方の御負担や、変化する教育環境に子どもたちが適応できるように支援をしていかないといけないと思っております。こうしたことが本市の誰一人取り残さない教育を実現することだと思っております。

本日の協議につきましては、「社会の変化に対応したこれからの教育について」として考えておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

本村市長 よろしいですね。ありがとうございます。

それでは、「社会の変化に対応したこれからの教育について」を協議題としたいと思います。

はじめに、私の方からお話をさせていただきます。

昨年私どもは令和元年東日本台風、これによりまして藤野北小学校の皆さんが、今プレハブの仮設校舎へ場所を移して学校生活が行われていたり、また、コロナ禍の中で本市におきましては、2月に陽性患者が出まして、そこから人権に配慮した対応や、医療従事者

などへの支援もしっかり対応しながらやっております。学校生活においても一斉臨時休校という、約3か月間、児童生徒が自宅に待機をしなければならないという大変な状況で、誰もこのようなことは読めなかったことでありますし、子どもたちが自宅にいて、友達と会えない、勉強ができない、そういった環境の中で子どもたちも、精神的なストレスや体力の低下も含めて、困難があったのではないかと思います。

また、家庭においても保護者の皆さんにおかれても恐らく、普段学校に行く児童生徒の皆さんが朝から一日いますので、夏休み、冬休みではそういうことがあるかもしれませんが、かなり変わった形で生活を送らないといけない状況でした。そういう学校の先生方、そして保護者、児童生徒、そして教育委員会をはじめとするこの教育行政に携わる皆さんにとっても、あらゆる形で対応が先んじて求められたものでございますので、こうした新型コロナウイルス感染症に関するこれまでの経過や現状なども踏まえて、教育委員会の部分の取組の確認をさせていただきたいと思いますが、教育長の方からまずお願いいたします。

鈴木教育長 それでは、私から若干説明をさせていただきます。

今、市長からお話ございましたとおり、最初の新型コロナウイルス感染症患者の確認は2月ということであり、実際に振り返れば今から9か月前ですね。それから市内の医療機関で感染が広がったと。その当時、市民の方の動揺ですとか、不安というのは一気に高まってまいりましたが、当時は市長が先頭に立って積極的にPCR検査をやって拡大を防ぐのだと、こういう取組を進めてきたところでございます。

御承知のとおり2月27日、当時の安倍総理大臣から、春休みまで一斉休校というお話が、いきなり記者会見で出まして、当時の各教育委員会は驚いたわけですが、当時私も1か月経てばどうにかなるのかなという気持ちでございました。

ところが、振り返ればその後、4月7日に緊急事態宣言が出て、結果的には先ほど市長がおっしゃったように3か月間、本当に子どもたちの貴重な一日が結局、3か月も止まってしまった。この間、教育委員会では、児童生徒が学校とつながってほしい、自分が学校に属していて、学校に相談すればいいのだということが分かってほしいということで、家庭訪問ですとか、あるいはラジオ、テレビ、いろいろなものを使って、学校につながっていただきたいということで、学校にも様々な取組をお願いしてまいりました。

夏休み、冬休みを短縮しましたが、先週また本市の教員、あるいは児童にも感染者が広がって、今現在、保健所がすぐ対応していただいているので、基本的に学校現場の方では

安心というか、すぐ相模原市の保健所が対応してくれて、感染拡大を防いでくれるという認識を持って、現場からも感謝の声が届いております。

こういう中で、今学校ではできないではなく、何ができるのかということで、いろいろな取組を進めておりますので、具体的な取組につきましては事務局から説明をさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

本村市長 分かりました。事務局から、お願いいたします。

小林教育局長 それでは、事務局から御説明をさせていただきます。恐縮ですが着座にて失礼いたします。

「新型コロナウイルス感染症への対応」と書かれたA3の資料を御覧いただきたいと思っております。

資料左上の国の動向にございますとおり、2月27日に内閣総理大臣により全国一斉の学校の臨時休業の要請があったことから、本市におきましても翌週月曜日の3月2日から市立小中学校の臨時休業を実施いたしました。そして、4月7日には国において緊急事態宣言が発令され、新型コロナウイルス感染症に対する警戒態勢が全国的に一層強まる中、本市といたしましても、臨時休業の長期化も見据えながら、児童生徒の健やかな学びを保障するための取組を進めてまいりました。

具体的な臨時休業中の取組といたしましては、児童生徒の学びの保障や心のケア等に関する取組として、教育委員会作成の動画コンテンツの配信やDVDの貸出しにより、自宅における自主学習の支援を行ったほか、児童生徒が休業中も学校のつながりを感じながら規則正しい生活が送れるよう、エフエムさがみと連携しての「ラジオ de 朝の会」の放送や、課題の受渡日の設定などによる児童生徒の様子の把握、就学援助制度による休業中の昼食費の一部支援などを行ってまいりました。

また、学校における新型コロナウイルス感染リスクを可能な限り低減しつつ、児童生徒の健やかな学びを保障するための取組の指針として、教育委員会が学校再開に向けたガイドラインを作成し、学校へ周知を図っております。

次に、学校再開後の取組についてでございます。まず6月1日から12日までの学校再開直後におきましては、長期休業明けにおける児童生徒一人ひとりの心身の健康状態や学習状況を丁寧に把握するために、1学級を2分割して日替わりで登校させるなどの分散登校を2週間程度実施いたしました。

次の学習の遅れを取り戻すための取組といたしまして、年間指導計画の見直しによる標準授業時数の圧縮や、夏季休業、冬期休業の短縮などの授業時数確保に向けた取組を行ったほか、児童の学習支援を行うため、小学校6年生を対象に新たに学習支援員を配置いたしました。

次の人的体制の整備といたしまして、教員の負担の軽減を図るため、スクール・サポート・スタッフを80人程度増員したほか、各校において実施していた月1回のトイレ清掃や消毒委託について、それぞれ月2回ずつ実施するように拡充いたしました。

また、学校再開ガイドラインを改訂し、2学期以降の教育活動に向けての配慮事項等を記載した持続可能な新しい学校生活ガイドラインを各学校へ発出いたしました。そして、各学校が迅速かつ柔軟に、学校における感染症対策や学びの保障に向けた取組を実施できるよう、国の補助金を活用し、新たに各校に再配当予算を計上いたしました。

このように、コロナ禍においても児童生徒の健やかな学びを保障するために、様々な取組を行ってきたところでございますが、今後の課題につきましては、資料の右側を御覧ください。

1つ目の課題でございますが、8月27日時点では新型コロナウイルス感染症に係る累積新規感染者数における児童生徒の割合が、本市では全体の約2.5%ということで、全国の約1.1%を上回っている、そういう状況でございますが、幸いにも学校が感染場所となった事例はございませんでした。しかしながら、先日も市内において児童の感染が確認されるなど予断を許さない状況でございますので、引き続き、学校における感染防止に取り組んでいく必要がございます。

2つ目といたしましては、各校においては児童生徒の学びの保障を意識しながら再開後の教育課程の編成を行ったことで、学習の遅れを取り戻すことへの不安ですとか、焦燥感は解消されつつありますけども、調理実習ですとか、音楽の合唱などの感染リスクの高い教育活動に関しましては、教育委員会が作成したガイドラインに基づき、引き続き、感染リスクを低減した取組を継続する必要がございます。

3つ目は、新しい生活様式に対応した学校運営や教室などの共用部分の消毒等、教員には今までにない新たな負担が生じておりますので、教員が教育活動に専念するための更なる体制整備が求められております。

4つ目といたしましては、新型コロナウイルス感染症の発症を恐れ、登校ができなかったり、自分のクラスで活動ができない等、一般的な学校生活が送れない児童生徒に対しま

しては、引き続き、児童生徒、保護者の心のケアや学習面、生活面でのフォローが必要となります。

事務局からの説明は以上でございます。

本村市長 ありがとうございます。

ただいま、事務局から新型コロナウイルス感染症に関連しました現状と課題等につきまして、説明がございました。こちらを踏まえまして、今後の教育に関する皆さんのお考えにつきまして、どなたか御発言をお願いいたします。小泉教育長職務代理者。

小泉教育長職務代理者 私は仕事の関係で学校現場にお邪魔することが多いのですが、今の事務局の説明にもありましたような本市のきめ細かな対応は、私自身、また、恐らく市民の皆さんも評価しているのではないかと考えております。

私の学校現場に行つての感想ということになりますが、やはり学校現場の先生たちの頑張りというのがとても印象に残っております。先ほどの休業中の対応、また再開後の子どもたちの学習、学びの保障というところで、かなり頑張ってくれているなという印象を持っております。

ただ、第3波という話もニュースで出てきているとおり、これからまた市民一丸となって対応していくことが必要なのかなと考えています。その中でも、学校の感染予防については、家庭の協力がぜひお願いできたらなと考えています。例えば、具体的な話になりますけれども、検温といったようなベーシックなところの対応をお願いできたらと思っています。中には忘れてきてしまう子どもがいらっしゃる家庭があるということをお聞きしています。ぜひ、各家庭でも頑張りたいと考えています。

また、先ほど今後の課題の中にもありましたが、やはり心配なのは子どもたちの心のケアかと思ひます。なかなか見えない恐怖というのがあるかと思うのです。また、これだけ感染者数が増えてくると身近なところで出てくる可能性がございます。

また、本人、子どもたち自身も感染するということもあります。そこから感染してしまうということは、それは仕方がないというのは変な言い方なのですが、それがいわゆるいじめ等につながらないように正しい知識と、またそれに対する対応、心遣い等、今後も継続して、特に学校の先生たちは頑張つて指導して欲しいなと考えています。以上です。

本村市長 ほかにございますか。宇田川委員。

宇田川委員 かつて経験したことのない状況に直面して、様々な問題に本当に教員の先生

方がすごく真摯に向き合って対応している、そういった教員の姿というものは、そのままこれから新たな時代を担う子どもたちのモデルになっているのではないかなと考えられます。

そして、本当にこれは重大だと思うのですけれども、新型コロナウイルス感染症に対してうつらない、うつさないように配慮する生活を送るということはもちろんなのですが、それに十分配慮した上でも、やはり感染してしまった場合には、その感染してしまった児童生徒、保護者、教職員が悪者扱いされないというのでしょうかね、人間としての尊厳が守られるような、そういう人間関係の構築であるとか、あと本当に子どもたちが安心して生活できる、信頼できる社会づくりというものを保障するための相模原市の教育について、改めて見直して考える絶好の機会にしていければと考えております。

本村市長 鈴木教育長。

鈴木教育長 今、小泉教育長職務代理者、宇田川委員からお話ございましたとおり、今回、新型コロナウイルス感染症を原因とした偏見ですとか、差別、こういうものが起こらないよう人権意識を高めることが本当に必要だと思っています。

教育委員会では人権に係る指導資料を学校に出して、その人権教育というのを進めているのですが、やはり子どもたちの人権意識の涵養においては、一番大切なのは日々の生活の中で接する大人、学校現場で言えば教員の人権意識を高めていくことが必要だなど。

ただ、今、教育行政を担っている中で、学校では人権を教えたとしても、地域の中での偏見、差別というのは学校だけでは防ぐことができないので、非常に難しさも感じているところです。以上です。

本村市長 ほかにございませんか。

それでは、私の方から子どもたちの心のケア、人権教育についてお話をさせていただきたいと思います。

先ほど事務局からもお話ございましたが、この臨時休業中の取組といたしまして、学校再開に向けたガイドライン、そして学校再開後の取組として、持続可能な学校生活ガイドラインといったものを教育委員会から各学校へ出していただきまして、ここにも心のケアという、大変重要なポイントがあったと思います。

私も市内で、児童生徒が初めて感染をしたということを知ったときに、教育長、教育委員会に対しましても、とにかく人権に配慮した、これは小泉教育長職務代理者もお話されましたが、どなたが感染するか分からない、もちろんうつさない、うつらないという対応

を私たちはそれぞれとっておりますけれども、感染経路が分からないことが非常に多くございます。保護者もSNSを見ていますので、どなたの子どもかという話にもなりかねないという心配もあったものですから、そういった中で、とにかく子どもたちが元気に、これは8割ぐらいの方が無症状で、そして致死率が低く、皆さんは完治している可能性が高いわけですので、復帰後の児童生徒の対応、学校側が迎え入れるというか、その環境をしっかりとつってほしいということは常々お願いしております、ここまでいじめにつながったという事例はないと承知しております。

これからも感染しないことが一番であります、感染する可能性はあるわけですので、相模原市の教育の中において、やはり誰一人取り残さない教育が大切です。私たちは、津久井やまゆり園事件を経験し、共生社会の実現というものを非常に多く学んできた中で、本市は人権教育もこれまで積極的に取り組んでまいりました。これからも私たちは子どもたちが未来に向かって自信を持って、またお友達と仲よく笑顔あふれる学校生活にしていきたいと思っておりますし、一人でも多くの不登校児も含め、社会的自立に向けて進んでいける環境をつくっていくことが私たちの務めだと思っております。

その中で、特に令和2年4月1日から義務教育学校、青和学園が新しい形でスタートいたしました、小学校70校、中学校35校、そして義務教育学校1校という形で新しくスタートしたわけですが、こういうことも迎えながら、今、まっすぐ子どもたちも毎日元気に過ごしていると思っております。

これからもこうした心のケアや人権教育を尊重しながら、私たちはしっかり応援していきたいと思っております。

また、教育長からお話があったように、学校以外の地域の皆さんにも御理解をいただかないといけないと思っております、やはり子育て、そして教育というのはもちろん家庭が基本だと思いますが、学校が重要な部分もございますし、学校教育もまた地域の皆さんの御理解があってこそだと思います。そういった中で地域の協力が非常に必要だと思っております。

また、宇田川委員からもお話をいただいた、うつらない、うつさないという視点も、引き続き学校で徹底して、先ほど言った検温とか、まずはできること、手洗い、うがい、そして、昨日発表しましたが、18日から始まります市議会12月定例会議では、子どもたちを感染症から守れるように、例えば公園とか、学校のトイレとか、それから廊下にある水道を自動水栓にする予算案を出させていただきまして、こうしたコロナに負けない学校

教育をこれからも応援していきたいと思っております。以上です。

そのほかにございますでしょうか。平岩委員。

平岩委員 市長のお話の中で、誰一人取り残さないというお言葉がありましたけれど、学びの保障ということで少しお話をさせていただきたいと思うのですが、新型コロナウイルスというのは、もちろんこれは誰もがこれまで経験したことの無い事態だったのですが、当初、社会全体が感染症にどのように対応していけばいいのか、全く分からない状態でした。そういうふうに誰もが戸惑う中で、学校としての対応を迫られたわけなのですが、相模原市の教育委員会では、一斉の臨時休校の早い段階から具体的な取組をスタートさせることができたと感じています。

事務局からも先ほど、臨時休業中の取組について説明がありましたように、動画コンテンツですとか、ラジオを活用して先生方の声を子どもたちが聞いたことは、不安を感じていた児童生徒、それから保護者にとっても大きな励ましになったのではないのでしょうか。

相模原市のこういった取組というのは、新聞やテレビにも取り上げられたわけなのですが、子どもたちが落ちついて日々を過ごせるようにという先生方の思いがあってこそそのものだったと思います。現場の先生方に対しては、非常に心強いものを感じております。

ただ、日が経つにつれまして、新型コロナウイルスの感染対策だけではなくて、学習の遅れに対する不安感というものも増してまいりました。これは現在も続いておりますが、収束時期も含めまして、先が見えない中で、子どもや保護者にとって教育について、この先どうなるのかという情報は非常に重要だと思います。学びの保障に向けた今後の課題については、十分に対応をお願いしたいところでございますが、それと併せまして、刻々と変わっていく情報を確実に届けるための取組もしっかりと進めていかなければならないかと考えております。

繰り返しになりますが、学びに関する情報というのは、様々な環境の家庭や、それから様々な状況にある子どもたちに確実に届くように、あらゆる方法で伝えていただきたいと思っております。

本村市長 ほかにございますか。小泉教育長職務代理者。

小泉教育長職務代理者 平岩委員の関連のところをまず一点お話させていただくのですが、学びの保障というところで、臨時休業が3か月ということは事実ですので、それだけ、この1年が短くなってしまったと。その中の学習ということで、やはり一番大事なのは学習に遅れが出ないということかと思っております。

1年間で完結するかどうかは、今もう11月ですが、なかなか難しいのかなと思っております。そういった意味でも、長いスパンで子どもの学びを保障するということができるように、学校側の更なる頑張りを期待したいなと考えております。

また、教職員の負担軽減ということでお話しさせていただくのですが、先ほども事務局の今後の課題の3番目のところにもありましたけれども、学校現場で放課後の消毒がなかなか大変だという話を聞きます。先ほど、市長からの水栓の自動化というところは、その作業軽減にもつながってとてもいいかなと考えております。

結果的に、その先生方の負担を減らすということは、言い換えると子どもたちの学びに戻ると。子どもたちに向かい合う時間に専念できることになりますので、ぜひこういった施策も更に推進して、よりよい学校現場にしていけたら、コロナに勝てるなと考えております。以上です。

本村市長 ほかにございますか。宇田川委員。

宇田川委員 今の教員の負担軽減に関してなのですけども、児童生徒、保護者の方への心のケアですとか、あと学習面、生活面でのフォロー、新型コロナウイルス感染症対策などなど、日頃の教育活動に追加して更に求められる対応というものが多く、教員の負担というのは、かなり大きくなっているのではないかなというように考えられます。

そのような中で教員自身の健康を守り、教育活動全般を支援するためにも、ぜひ学習支援員ですとか、スクール・サポート・スタッフなどの増員というものは、実際に行われているわけなのですけども、そののところを更に実態というものを把握していただいて、本当に数だけの成果ではなくて、実態に即した形での必要性というものを把握した上で、ここで一つ、地域の人材の活用などということができると、またそこでの先ほどの偏見に対しての対応というところで、地域の理解・協力が必要だという話が出てまいりましたけれども、そういった意味で地域との連携というものがここでも実現していくとその地域の理解・協力というものにも繋がっていくのではないかなと考えます。

本村市長 ほかにございますでしょうか。岩田委員。

岩田委員 私もその学習支援員であるとか、スクール・サポート・スタッフを増員することができたというその取組に関してはとても評価していて、手助けをする人の増員というのは大事だと思っています。

また、教育の内容というか、教育で考えたときには、今回たまたま密を避けるということで、相模原市だけでなく、いろいろなところでクラスの人数を半分に分散登校を行

って、大体1クラス20人ぐらいでクラス運営をしてみた、そうすると先生の方でも、1クラス20人ぐらいだと目が行き届いたというような感想をいろいろなところから相模原市に限らず聞いていて、これはコロナのための対応ではあったのだけれども、もしかしたら一人の先生が目が行き届く適正人数というものを教えてくれたのかなと考えています。国の方でも、そういうところの検討をしているようですけれども、今後クラス運営であるとか、教育を考えていくときの学びになるのかなと今回の経験で思いました。

あと、私が貧困の研究をしているということもあるからなのですけれども、やはり親の就労であるとか生活不安から子どもの学びにどういう影響が起きるのかということを経済委員会としても視野に入れておくことは大事なのかなと思っています。

子どもの貧困は見ようとしなければ見えないと言われているように、やはり弱い立場にある人、子どもであるとか、家族というのは、本人たちはなかなか声を上げてくれないという特性を持っているので、もしかしたら今後、どこかの時点で相模原市において、コロナの影響で、どんな子どもとか、家族に教育の影響があったのかみたいなのところを、もしかしたら生活に影響があったかというところを調査などで把握するという必要もあるのかなと考えております。

さらにもう一点として、学習の遅れを取り戻すということは、子どもたちにとっては大事で、そのためにいろいろなところで夏休みとか、冬休みを短縮して行われていると、相模原市も先ほどの報告にあったように行っているかと思えます。それはそれで大事なのだけれども、でも同時に成長期にある子どもたちにとっては、その遊ぶ権利とか、遊びの保障みたいなのところが犠牲になってないのかと、私たち大人は遊ぶ暇があったら勉強しなさいというけれども、子どもたちにとっては遊びという部分の保障というのは大事なので、そういう視点も忘れずに対応を考えていきたいなと思いました。以上です。

本村市長 ほかにございますか。では、白石委員。

白石委員 多少、保護者の視点も含めてお話しさせていただければと思います。

コロナ禍で学校の授業時間が少なくなってしまう、そのところはある意味、相模原市に限らずのことですので、いた仕方ないのかなという感じもしておりますが、あと少し懸念されることとしましては、今まで日常の教育活動で得られていた様々な体験ですとか、経験の機会が減ってしまっているのではないかというところが、ちょっとかわいそうかなというところがあります。

実際にクラブ活動ですとか、部活動、それから運動会などをはじめ、いろいろな制限が

設けられてしまっています。これはいた仕方ないところで、各学校の中でこういう状況下におきましても、先生方が一丸となって知恵を絞って、工夫を重ねながら子どもたちの充実した学校生活のために、一番邁進されていることを承知しています。

こういう中で、子どもたちにとってもコロナ禍という経験を逆に活かして、こういう時代で自分たちは何ができるのかを考えていく、考える力を身に付ける機会とするぐらいの思いを持って取り組んでいくことが大切ではないかと考えています。

ただ、一つ聞こえてくることとしましては、保護者の中では、あそこの学校とうち小学校と、うちの学校はこうだよ、うちの学校はこうだよと、そういう学校間での違いを、子ども以上にある意味、保護者がすごく気にすることも増えたような気がしています。

同じ市の学校間で、コロナ禍での対応があまりにも違いすぎると、その辺が保護者の中で余計不安をあまり立ててしまうことになりかねませんので、学校運営につきましては、地域の実情に応じながら学校長が運営をされているところですが、ぜひ近隣の学校間でも連絡調整等を密にしながら行っていただきたいと思います。

あともう一つ学校教育以外に、社会教育活動の部分でも非常にコロナ禍の影響は大きなものがあると感じています。公民館活動をはじめとして、社会教育の領域でもまさしく公民館活動とか、社会教育の活動は人が密になる活動でしたので、社会教育施設も休館が長く続きましたが、そこで繋がりが分断されてしまい、孤独感が増している人が大勢いるような状況になっていると思います。

ぜひ今後、いつまでですか分かりませんが、正しく恐れることが必要だと思いますし、感染することを恐れたり、責任を問われることを恐れて、何も分からないというのが一番いいのだというような風潮が広がってしまわないようにしなければいけないのかなと感じます。

ぜひ万全の感染対策を講じながらも正しく恐れて、必要なことはこれまでどおり行っていくという勇気を持つことも大切だと、私は感じています。以上です。

本村市長 どうぞ、鈴木教育長。

鈴木教育長 ここまで、コロナ禍における様々な課題ですとか、教育に求められる取組について、市長、各委員から御発言いただきました。

その中でもやはり私が大事にしたいのは、小泉教育長職務代理者や宇田川委員からありました、学びを保障するための教員の負担軽減、これをぜひ実現していきたいなど。学校現場を見てみますと、朝早く先生が学校に行って、窓を開けて換気をしながら子どもたち

が帰った後、消毒作業をやっていると。これが教員の新たな負担につながってるというのを感じております。

学習支援員、スクール・サポート・スタッフの増員という発言もありましたけど、教育委員会としても教員の負担軽減を図るための取組について、可能な限り実現していきたいと考えております。

コロナ禍において、学校現場では今までと同じような教育活動が実践できない状況にございます。このような中でも、教員と児童生徒が知恵を出し合いながら、今だからできること、今しかできない学校生活を過ごしており、こうした試行錯誤が新たな生活様式をつくっていくのではないかなというのを感じています。

依然コロナ禍が続いており、まさに今後の社会が予測できない状況に直面している中、よりよい教育活動の実践に向けて、教員が児童生徒と共に考える時間を持つためには、やはり教員の負担軽減が必要かなと。

先ほど市長からも、人権教育という話がございまして、私も人権を教えるだけでなく、人権のための教育をやること、これが一人ひとりの安心、子どもたちにとって学校が安心できる居場所になっていくのだという理解をしています。

市長も人権のまちづくり、市民の誰もが過ごしやすい相模原市にしていきたいという思いがあるのだと思うのですが、その辺はぜひ、市長と教育委員で共有をしたいので、まとめになるかもしれませんが、市長の思いをお聞かせいただければありがたいです。

本村市長 皆さんから、学びの保障、教員の負担軽減、そして子どもたちの経験、体験の保障、コロナ禍における教育活動の在り方などのお話をいただきまして、教育長の方からも取りまとめのような御意見をいただきました。私の方からも少し、これについてお話をさせていただきと思います。

まず、学びの保障、教員の負担軽減についてでございます。授業日数が縮減される中、各学校で、子どもたちに合った教育カリキュラムをしっかりとつくっていただくということで、各学校にもお願いしたいと思っておりますし、そうした中で小泉教育長職務代理者からお話がありましたが、恐らく今年1年でこの遅れた教育を取り戻すのはなかなか難しい部分もあると思うのですが、例えば小学生だったら中学校に上がっていく、中学生ならば高校に上がっていくという中で、少し長いスパンで、例えば小中高で連携をしながら、さらには、大学、短大、そして社会の皆さんも含めて、学びが少し遅れてしまったこと、長いスパンでここを取り返していただかなければいけないのかなと思っております。

ですから、急いでここをやらないといけないという話ではなく、長い人生の中で、一時と言ったら失礼かもしれませんが、そうした子どもたちの学びをしっかりと、これからも継続して応援をしていきたいと思っております。

そして、子どもたちがお友達と向き合ったり、そして部活動で一緒に汗を流したり、学んだりする機会、こういう機会が今回失われましたし、また中学校の修学旅行がなくなったり、体育祭、文化祭も少し変わった形で行われたりしましたが、子どもたちが先生と向き合って、対話をしながら自分たちの思い出づくりについて各学校でいろいろ考えてくれています。とてもいい取組だと思えます。

例えば、学校によってはまたスキー旅行に行きたいとか、どここの遊園地に行きたいとか、どこどこへハイキングに行きたいとか、いろいろな案が各学校で、中学校3年生から出ているようでございまして、こうした自分たちで考えて、自分たちで先生と一緒に向き合って思い出づくりをしていく、考えていくというのは非常によい機会だったなと思っています。

また、今年は様々な計画が変更された中で部活動の最後の大会がなくなり、その代替として開催された中学校3年生の最後のスポーツ大会というのでしょうか、各地区で行った大会に顔を出せていただきまして、女子バスケットボールと、そして柔道の大会を拝見しましたが、皆生き生きとして、そうした機会ができてよかったと本当に思っております。

また、文化部の皆さんにおかれても、学校の文化祭など、自分たちのこれまでの3年間の集大成をお披露目できるような機会もあったと伺っておりますので、そういった点では、学校側も非常に工夫や努力をされて、そうした対応ができたことが本当にうれしく思いますし、これも学びの保障の一つだと思っております。

勉強ももちろん大事なのですが、こうした仲間との時間、空間というのは生涯、私も今50歳になりましたが、振り返ってみても小学校、中学校の楽しいひとときというのは今でも思い出となっておりますし、恐らく相模原市で学んでいく子どもたちがこれから30年後、50年後、将来、家庭を持って、子育てをする時期になっても、自分が学んできた学びの足跡というのは、生涯忘れられないのではないかと考えていますので、この学びの保障というのは、非常に大事だなと思っています。

それから、教員の負担軽減に関しましては、教育長をはじめ、各委員からも同じ御意見でございます、本当にこの時代の変化とともに、教員の負担が非常に多くなっておりまして、子どもと向き合う時間が少なくなっているということをお聞きしております。

そういった中で今回、教員の負担軽減が大きくなっていることを鑑みながら、例えば、先ほどもお話があった学習支援員を42校に新たに配置して、それからスクール・サポート・スタッフを80名程度増員したとか、あとトイレ清掃の関係も先ほど小泉教育長職務代理者からお話がありましたが、やはり放課後の先生方の消毒に大変時間がかかるので、これまでは月1回の業者による定期トイレ清掃等だったのですが、これを週1回に変えて。これから教員の負担軽減を図りながら子どもと向き合う時間、それから後ほどお話ししたいと思います、ICT化が進んでまいりますので、本市のプログラミング教育も先進的なことを進めてやってまいりましたが、教員の皆さんもいきなり端末機器1台を渡されても、どんな形でやったらいいのだろうかという、やはり教員自身が学ぶ時間が必要だと思っておりますので、これは時代の変化とともに、複雑化した、非常に難しい時代、先ほどコロナや台風といったお話もしましたが、先が見えないわけでございますので、そういった場面ごとに、先生方に適切な判断ができる経験や余力も必要だと思いますので、先生方の学びの時間もそういった意味では、確保していかななくてはいけないのかなと思っております。ですから、今後も教員の負担軽減というのは、働き方改革も含めて非常に大事な取組だと思っておりますので、しっかり頭に入れてまいりたいと思います。

また、先ほどもお話がございました少人数学級制度でございますけれども、こちら分散登校時に、1クラス20名ぐらいでやったということでございまして、先ほどもお話がございましたが、目の行き届く教育ができたというお話もありますので、少人数学級の必要性、またプラス面というものも先生方からお聞きをしておりますので、大事な視点だなと思っております。

やはり先生方が、一人ひとりの児童生徒と向き合うというのは非常に大事だと思っておりますし、私も思い出すと、担任の先生に怒られたり、褒められたり、いろいろなことがありましたが、全て財産だなと思っておりますし、子どもたちは多分忘れないと思うのですよね。そういった子どもたちと向き合う先生の負担軽減に努めていきたいと思っておりますし、少人数学級に関しても必要なことだと改めて認識をいたしました。

次に、子どもたちの体験、経験の保障で、これは小学校で12日間夏季休業を短縮したとか、中学校では更に短縮したと伺っており、冬季休業も3日間短縮したということでありました。また、白石委員からもお話がありました、社会教育に関する授業なども少し減ってきているのではないかと思いますし、子どもたちの体験、経験は非常に大事だと思っておりますし、例えば、子どもたちが皆で地域に出てきて働く皆さんに話を聞くとか、私の

ところにも、SDGsを学びたいということで、上溝中学校の皆さんが来られましたけれども、やはり学校を通じたいろいろな体験を、私たちが応援していきたいと思っております。様々な家庭環境がある中で、学校という皆さん平等で共通なこの時間、空間を私たちは誰一人取り残さないようにしたい。そして先ほども岩田委員から、このコロナの中での親の収入、所得への影響のお話でしたが、子育て世代の皆さんに、アンケートをした結果、ひとり親世帯の皆さんに、より影響があったというデータも出ているようでございます。私自身もシングルマザーの家庭で育ってきたんですが、いろいろな家庭環境がある中で、学校でいろいろな経験、体験をこれからもさせてあげたいなと思っていて、いろいろなものを見せてあげたいし、いろいろなものを教えてあげたいと思います。もちろん家庭という一番大事な基本はこれからも変わらないと思うのですが、学校でぜひこれからも子どもたちが夢を持てるように、例えばJAXA相模原キャンパスがある関係で、JAXAの研究機関に行って、自分は宇宙飛行士になりたいと思うような子どもたちが出てくることだってあり得ると思っておりますし、またそういう声を聞いていますので、環境が人を変えらると思えます。SC相模原がJ2昇格に向けて活躍をされておりますが、このことによって、サッカー選手になりたいという児童生徒も増えているのではないかと思いますし、先日、SC相模原が主催して、私たちが知っている元日本代表選手と市内中学生の選抜チームがサッカーの試合を行って、一緒にプレーをする経験をさせてもらい、相模原市ならではの取組ができたことは非常にうれしく思っています。こうした子どもたちの体験、経験は、自己肯定感を伸ばすために非常に大事だと思っておりますので、ぜひこれからもこうした子どもたちの体験や経験を充実させていきたいと思っております。

また、コロナ禍における教育活動の在り方に関しましては、先ほどお話しした水道の自動水栓化、全ての水道はできませんが、トイレを中心に、そして廊下の水栓化も含めてやっていきたいと思っております。また、防災の観点でお話をしますと、今回の補正予算の中には、各区の小中学校で、これまで体育館に空調設備がないということで、コロナ禍において、例えば熱中症の問題があるとか、昨年の令和元年東日本台風の風水害で避難場所が大変混雑したということもあって、密を避けることが大事なことから、今回、横浜市、川崎市が既に実証している体育館の空調設備について、本来教育委員会からは全ての学校でお願いをしたいと言われているお話であります。まずは実証的に一部の学校で設置してまいりたいと思っております。

こういった取組も前へ進めてまいりたいと思っておりますし、コロナ禍の中でもありますけれど

も、子どもたちがこれからも学びを通じて、自己肯定感を持てるように、私は皆が将来の夢を語る児童生徒であってほしいなと思っていますので、これからもしっかり皆さんと連携して、応援をしていきたいと思っております。

このコロナ禍におきまして、どのような姿勢で取り組むことが大切なのか、ただいまの意見交換を通して、皆さんと思いを共有できたと思います。

さて、コロナ禍の影響で新しい生活様式に対応するため、テレワークの推進や今回、これも新しく緑区で補正予算を上げさせていただきましたが、会議や講義、行政手続のオンライン化など、様々な分野でICTの活用が進められているところでございます。学校におきましても、昨年度から国のGIGAスクール構想のもと、教育ICT環境の充実が進められている中、コロナ禍によってその動きが一層強くなったものと承知しております。

このGIGAスクール構想は教育活動に大きな変化をもたらすものであると感じておりますが、本市の教育活動がどのように変化していくものか、望ましいものであるのかを、その方向性について、皆さんと認識を共有するべく、協議をさせていただきたいと考えております。こちらにつきましては、まずは事務局から現状の課題について説明をお願いいたします。

小林教育局長 それでは、事務局から御説明をさせていただきます。

「ICTを活用した教育活動」と書かれたA3の資料を御覧いただきたいと存じます。

ICTを活用した教育活動につきましては、現在、国のGIGAスクール構想の下、学校におけるICT環境の整備や人的整備が全国的に進められているところでございますけれども、まずこのGIGAスクール構想につきまして御説明いたします。

「1 GIGAスクール構想とは」というところの、 にございますとおり、全国的に学校のICT環境整備の状況が脆弱だということ、それから、地域間での整備状況の格差が大きいということ、学校の授業におけるデジタル機器の使用時間がOECD加盟国において最下位であること、こうした問題が顕在化していたということで、これらの課題を解決するために策定されたものが、GIGAスクール構想でございます。

GIGAスクール構想においては児童生徒1人1台の端末、それから高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することによりまして、多様な児童生徒を誰一人取り残すことなく、個別最適な学びを通じて、資質・能力が一層確実に育成できるICT環境を実現する。それから、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教員、児童生徒の力を最大限に引き出すこと、こういったことを目標に掲げ

ております。

こうした国の動きの中で、本市といたしましても、ICT環境の充実や情報活用能力の育成に向けて取組を進めてまいりました。

「2 本市におけるICT利活用に関する現状」というところを見ていただきたいと思いますが、平成31年度の全国学力・学習状況調査の結果、授業中のICTの活用、児童生徒のICT活用への意識が全国に比べて低い傾向となっております。

また、令和2年3月現在でございますけれども、教育用のコンピューターの整備率につきましては、全国平均が4.9人に1台に対しまして、本市では8.1人に1台ということで、これも全国平均を下回る状況となっております。

そうした限られた環境ではございますが、新学習指導要領に位置付けられたプログラミング教育につきましては、令和2年度からの本格実施に先駆けて取り組むなど、情報活用能力の育成に向けた取組を意欲的に推進してまいりましたが、ICT環境の整備が不十分ということから取組内容にも限界が生じていたと、そういう状況でございます。

こうした中で、国のGIGAスクール構想におきまして、コロナ禍においても児童生徒の学びを止めないための取組ということで、全国的に導入スケジュールが前倒しとなり、本市におきましても、令和2年度中には1人1台端末と校内ネットワークの整備が完了するという、そういう予定となっております。

なお、10月末現在で言いますと中学校3年生、そして小学校6年生の児童生徒を優先してうまく整備をしております、これについては既に全校で整備が完了しております。全児童生徒に対する整備率は約60%、年度末には100%となるということでございます。

資料の右側の「3 今後の展望と課題」でございますけれども、ICTを活用することにより、次のことが可能となります。

まず、主体的・対話的で深い学びの醸成ということで、例えば児童生徒同士でグループワークを行う際には、タブレットPCを用いることで、一人ひとりの意見や考えをグループ内で瞬時に共有することができるようになります。ほかの児童生徒の意見や考えに触れながら、深く思考し、表現力を高めることにつながるなど、より効果的な学習活動が展開できます。

次に、基礎的・基本的学力の向上ということで、タブレットPCと合わせて導入いたしました学習支援ツールの機能を活用し、児童生徒の得意不得意に合わせた出題の選別や、

効果的な反復学習、児童生徒の回答データの蓄積などを行うことにより、効率的に基礎的・基本的学力の向上を図ることができます。

また、働き方改革の推進といたしましては、例えば教員からの配付物ですとか、児童生徒からの提出物などをデータ化し、管理することで、物のやり取りにかかる時間を短縮するなど、授業運営や事務作業の効率化を図ることができます。

そして、緊急時における学びの保障といたしましては、今般のコロナ禍のような状況におきましても、タブレットPC等を活用し、全ての児童生徒がインターネットを經由して電子教材等を利用した学習が可能となります。

以上のようなことが、今回のICT環境の整備により実現可能となるものでございますが、一方で今後の課題といたしましては、下段の囲みにございますとおり、学校におけるICT環境が充実していく中、それらを活用して指導を行っていく教員もICTに関する知識や技術の習得が必要となりますので、教員のスキルアップと負担感の軽減が必要となります。

また、1人1台端末の整備が大幅な前倒しとなったために、研究校で実証されていた活用方策などを、各校へ浸透させるための十分な準備期間が確保できなかったということもございますので、今後、教育委員会との連携による学校、教員のサポート体制が不可欠となります。

事務局からの説明は以上でございます。

本村市長 ただいまの事務局の説明を踏まえまして、皆さんの思い描いておりますICTを活用した今後の教育の理想像などにつきまして、御発言をお願いいたします。平岩委員。

平岩委員 1人1台の端末が当たり前になりまして、学び方が変わる今、教育は過渡期を迎えているのではないかと思います。それに伴いまして、教育に関わる側の意識改革が大きな課題だと考えています。実は、先日プログラミング教育の模擬授業を受けさせていただきました。私もパソコンなどを使って仕事をしておりますし、日々の生活でもパソコンやタブレットなど当たり前の存在となっていますが、こういうふうにICTを使えることが当たり前になりつつある中で、授業中にICTを活用して、デジタル機器に慣れることが、これはICT教育の分かりやすいメリットです。将来、非常に役立つということは理解をしていたのですが、模擬授業を受ける前と後では全く印象が変わりました。実際に授業を体験して分かったことは、モニターに映し出される文字とか言葉とか図式が、大変カラフルで印象に残りやすい。それから、何よりイラストが動いたりだとか、正解をします

と音が鳴ったりするので、クイズ感覚というかゲーム感覚で楽しく知識が身に付いてくる感じがいたしました。

楽しければいいとか、楽しいからいいというわけではありませんが、教え方、学び方が大きく変化する時期に来ているということを実感いたしました。ということで、先生方にもICTに関する知識や技術が必要なのは当然なのですが、ICTを活用した学習の仕方への研究が、これも必須だと思います。

これまでの学び方をICTを使って行うというのではなくて、全く新しい学び方に変わるという感覚を教員、そして保護者がいかに持っているかというのが、これは簡単ではないと思いますけれども、先生方ももちろん、保護者にも理解を深めてもらう対策が必要だと思います。

本村市長 ほかにございますでしょうか。

宇田川委員 今の平岩委員の意見と全く同感でありまして、整備された1人1台端末の教育環境というものを十分に生かした教育実践を実現するというものに向けた、教員へのサポートというものは急務ではないかなと考えています。

特に教員間で差があるというようなことが現実としてある中で、いかに教員間でICTを活用した教育の実践というものを共有できるか、情報を共有できるかということが鍵になってくると思うので、そういった情報共有のシステムづくりであったりですとか、あとはICTの活用、ICTというものを使った教育というもので生まれた子どもの学びというものを教員自身が発信していく、写真とかを使った記録ですとか、アイデアをいろいろ出しながら、そういったものを発信していくことも必要になってくるかなというように考えます。

それで、今の平岩委員の話の中にもありましたけれども、学習指導要領が変わりました。その中で、従来の教育の在り方というものが大きく転換しておりまして、児童生徒自らが知識技能を獲得していく、主体的・対話的で深い学びの実現というものに向けて、ICTを活用した教育活動というものがすごく可能性を秘めているのではないかなと考えます。

その中で、ただICTを活用すれば、そういったことが実現するのかというとそうではなくて、いかに児童生徒の主体性を引き出せるか、また、児童生徒間の協働というものを生み出すことができるか、児童生徒自身が思考を働かせる、自分たちで考えるという思考ということのきっかけづくりを教員が実現できるかというところでは、教員の資質・能力というものが問われてくるのではないかと考えています。

それで、その主体的・対話的で深い学びということなのですけれども、ぜひ、特別な支援が必要な子どもたちにも、相模原市ではきちんと保障していくということが、私はとても大切だと思っています。

その中で、従来のその特別支援教育の在り方で在りがちだった、能力の向上のみを目指した計画どおりの授業というものから少し脱却して、大いにICTを活用したところで、特別な支援が必要な子どもたち自身が自己肯定感というものを持って主体的に学びを創造することができるような教育の充実ということを、ほかよりも一步先んじて実現、相模原市で、本市において実現していきたいなというように考えております。以上です。

本村市長 そのほかにございますでしょうか。小泉教育長職務代理者。

小泉教育長職務代理者 前二人の委員と重なるところはあるのですが、GIGAスクール構想によって、特にこれは前倒しになって、児童生徒1人1台の端末が配備されたということは、私自身、大いに期待しているところでございます。やはり新学習指導要領の目玉でもありますし、主体的・対話的で深い学びの実現がより具体化されたこと、また、個別最適な学習が展開できると。

先ほど平岩委員がおっしゃっていた研修を私も受けましたが、その中で児童生徒の、個の学びをAIで分析して、その子に合った課題が提示できるように、スキームもできていますよという話もありました。いや、すごいなと感じたのですけれども、それは個別最適な学びがどんどん展開されるなということで、大いに期待しております。

その反面、やはり課題というものもあろうかと思えます。これは機械が入ったから、そのまま子どもの学びが保障されるということではありません。当然、そこには教員のスキルアップ、先生方の指導が重要になってくるかと思えます。

そういう中でも、やはり研修の充実、先ほどもありましたけども、先生方の学びの時間の保障というものも大事なのかなと。

教育は人なりという話があります。まさに、教育はICTなりではないので、やはり先生方、人を大事にするということが重要かなと考えています。

あと、もう一つの課題としてはやはり環境整備かと思えます。学校では大丈夫でも、例えば家に持って帰ってもいいよと言いながらも、家庭のICT環境、もしくはネットワーク環境が不十分であれば、その辺はなかなか難しいところもあるので、そういったところの環境整備、また機械ですので、故障と更新ということがありますので、長いスパンの中で考えていけたらいいのかなと思えます。

併せて、学校に行きたくても行けない児童生徒への配慮という意味では、大変有効なネットを介しての学習活動の保障というところで、かなり力を発揮してくれるのかなと期待しています。以上です。

本村市長 ほかにございますでしょうか。白石委員。

白石委員 ほかの委員の方と多少被ってしまうところもあるかと思いますが、私もタブレット端末、ICTを活用した教育活動は、社会の流れを見ると子どもたちにとっても大人にとっても今後、必要不可欠にならざるを得ないツールだと感じます。

ちょうどたまたまですが、昨日谷口台小学校と小山小学校で、このタブレットを使った授業を見させていただきました。どんなふうにするのかなというのが一番興味があったところなのですが、非常に子どもたちが生き生きとしていて、今までの授業の在り方、先生が黒板に書いて、それを子どもたちの鉛筆でノートに書くというようなスタイルとは全く違った、タブレットを持ち歩きながら、子どもたち同士がコミュニケーションをとりながら学んでいくような姿が見られました。

小山小学校では、オーストラリアのシドニーとライブ中継を結んでというのでしょうかね、オーストラリアのシドニーにあるロボットを相模原市のパソコンで操作をして、動かすというような実証実験みたいなものをしていまして、我々もそうだったのですが、子どもたちは、コンピューターを使うことでこういうことができるようになるのだとか、そういう想像力を働かせるのに非常にいいきっかけになるのかなという感じもいたしました。

学校教育で活用していただく分には非常にありがたいと思っておりますが、先ほど課題の中でも触れられていましたけど、やはり学校によってその活用が進んでいるところと進んでいない学校がありますので、ぜひ、こういう貴重な経験に、どの学校の子どもたちでも触れられるようにできるだけ早くしていかなければいけないと感じています。

また、この学校の授業での活用もそうなのですが、実際には学校に行けていない、いわゆる不登校になってしまっている児童生徒への支援など、そこでの活用も、今後考えていかなければいけないのかなと感じます。

今までのスタイルと全く違う世界になり得るツールだと思います。こうした新たなものができると、それを活用する先生方は非常に大変かと思いますが、活用しつつ、また反面、人と人がリアルに触れ合う機会が減少しないようにしていくことも必要だと思います。一人ひとりの多様性を尊重していこうという中では、こういう普通の授業での活用から、家庭の事情ですとか、学校に行けていない子どもたちへの活用など、そういうこ

とも含め考えていくことが必要だと感じます。

さらにもう一点だけ、我々もそうなのですが、こういう情報機器が進化していくと、子どもたちは使えるけど大人の保護者、また高齢者層で取り残されてしまう人が必ず出てくるのかなと。このツールはインターネットの普及と同時にますます広がっているわけですが、家庭環境の格差、経済的な部分も含めてですけれども、広がってしまわないようにしなければいけないなと感じます。

国でもデジタル庁が創設されて、これからますます、この流れは加速していくと思えますけれども、こういう部分は学校教育だけに限らず、生涯学習の観点からも社会教育的な取組も必要なのではないかと感じています。以上です。

本村市長 そのほか、ございますでしょうか。

岩田委員 私もほかの委員から出たように、私たちの生活、大人の生活もスマホやケータイなしでは難しくなっているように、ICTを活用した教育というのは非常に重要で、当たり前のことになっていくのだろうなと思っています。

ただ一方で、私たちはどれだけ技術が進歩しても、人という動物ということで、機械ではないということは再認識しなくてはいけなくて、今、大学ではZOOMで授業をしているのですが、学生も参加してくれていて、私も一人ずつ学生の意見が聞けていいなと思ったのですが、対面授業で学生に話を聞いたときに、実はZOOMは疲れているのです。朝から夕方までZOOMの授業をずっと家で受けているのだけれど疲れていて、でも自分はパソコンとかZOOMとかをすごく上手に扱えない学生だけに、それは自分の技術が至らないために疲れるのではないかみたいなことで、声を上げられなかったということがあって、かなりパソコンとかを上手に使える学生だったらもっとうまく言っていたのかもしれないけれど、そういう不得手な学生ほど、声を上げられないのだなということ、この前の対面の授業のときに聞かされて思ったりして、ICTの活用が大切だと大きな声で言われているときだからこそ、やはりこの技術が手段であって、目的とならないように少し慎重になって立ち止まるということも大事ななと思っています。

本村市長 そのほか、ございますでしょうか。

平岩委員 ICTの環境というのは、家庭によってこれは大きく差があると思います。それと同時に、ICTを活用した教育の理解というものも各家庭で違いがあると思っています。

ICTに限らず、相模原市の学力をアップするためには、この保護者に教育の大切さを

理解してもらう努力が、これが不可欠だと考えています。

こういったことは、保護者ごとの理解度や教育レベルも様々である中、例えば文書を配付するだけでなく、いろいろなアプローチの仕方で積極的に行っていくべきだと考えています。それと同時に、市全体で教育レベルを上げていこうという機運醸成も必要だと考えています。先ほどプログラミングのお話をしましたが、例えばICTを活用したプログラミング教育というのは、将来物事に何か取り組むとき、それから人との話の中でもそうですが、考え方を整理するときに非常に役立つと感じました。

だからこそ、今の子どもたちはこういうことが得意だろうと油断せず、初めの一步でつまづかないように、それからICTに苦手認識を最初に持たないようにすることも、これはしっかりとしていかなければいけないのではないかと考えています。

それから、GIGAスクール構想と言いますが、これは誰一人残すことなく、子どもたち一人ひとりに最適な方法で教育を身に付けるという、そのような目的だと思えますが、教育におけるICTは特別な支援を必要とする子どもも含めまして、全ての子どもたちの様々な資質とか能力とかを確実に育てていくためのものであることを市全体が共通認識としてしっかり持てるようにする。一朝一夕にはいかないことですが、私も教育委員の一人として、長期的に取り組んでいきたいと考えています。

本村市長 そのほか。鈴木教育長。

鈴木教育長 私の方からはまとめのお話をさせていただきたいと思います。

冒頭、平岩委員にお話しいただいた、今は時代の大きな変革期にあるというのは、まさにそのとおりだと思っていて、コロナの関係、あるいは教育分野でのこの1人1台環境というのは、数年後には歴史の教科書に載るような事態の真っ只中に私たちはいる。ですから、正解というか正しい道というのは皆分からない中で、模索しているような状況です。

今回のGIGAスクール構想については、小泉教育長職務代理者から発言がございましたとおり、もともと令和5年度までに整備する予定を、国の経済対策で前倒しをした。そういう中では、先生方の研修も正直、追いついていない部分もあります。それを今、教育委員会の方でねじを巻いて、次年度以降、1人1台使えるような環境にしていかなければならないということで進めておりますが、岩田委員からお話がありましたとおり、端末を入れることが目的ではありません。岩田委員が言った、人間は動物だということで、教える、この活動については、機械がやってくれるものではないので、当然その間に教員、

あるいは大人、こういうものが入って人を育てていくという、ずっと続いている営み、これについても一度再認識する必要があるのかなと感じています。特に、特別支援が必要な児童生徒の学びを保障していくという中で、教育委員会としては、子どもたちの学びを保障するためのツールとして活用するとともに、市長がおっしゃったように、誰一人取り残さない、個別最適化された学びを実現させるための取組を今後も、市長と連携をしながら進めてまいりたいと考えています。以上です。

本村市長 そのほか、いかがですか。よろしいですか。

これまで各委員の皆さんから、教員の意識改革、スキルアップ、家庭環境への配慮、学校の意義、人と人との触れ合い、教育の大切さに対する保護者理解などについて、御意見をいただきました。私の方でも、少しまとめという形でお話をさせていただきたいと思えます。

私が市長になって1年8か月くらい経ちますが、就任当時から一番最初に実現させたかった施策はこの1人1台端末、これを副市長や教育長などに投げかけてまいりました。コロナ禍という中で、国からの補助がございましたので、それを活用して今回GIGAスクール構想というものが前倒しされて、令和5年の予定が令和2年度中の整備という形になりました。試験的にやっていた学校もあったようでありまして、そこに追い付くような形で、既に補正予算についても御承認をいただいております。また、今回の12月補正予算では、教員の皆さんに対する約3,000台強の端末機分の予算を計上させていただいております。

子どもたちがICTを学びたいと思ったときに、やはり先ほどからお話があるように教員の意識改革、スキルアップ、これは非常に大切な部分であります。こうした学びの方策が随分変わってまいりましたので、先生方の負担感というのは非常に大きいと思えます。ICTを得意とする先生方と、そうでない方との間のギャップも、なかなか大変な部分もあるのだなと思ひまして、スキルアップや教員の意識改革、負担軽減を含めて、例えば民間事業者の協力なども検討する必要があるのではないかなと思っております。

そういった中で、教育用コンピューターの普及率が、国が全国的に4.9人に対して1台、それに対して本市が8.1人に1台という課題がクリアできたことは喜ばしく思いますし、今後、校内ネットワークの整備や電源キャビネットの整備が進んでまいりまして、今年度中には全ての小中学校、そして義務教育学校で完了するというところでございます。

また、各家庭において、小泉教育長職務代理者からお話があったように、こういった整

備が整っている家庭とそうでない家庭がございますので、教育委員会の取組でモバイルルータの整備も進めていただいております。約600台、こちらも議会で御承認をいただいております。臨時休校がないことを祈るわけですが、先の状況がなかなか読みづらい部分がありますので、いつ何時でも子どもたちが学習できるような支援体制を整えることは非常にうれしく思っております。

また、本市は平成29年からプログラミング教育を先進的に行っておりまして、全国の各市議会の皆さんが視察に訪れるくらい注目をされております。全国的には令和2年度からであることと比較すると、かなり前倒しで取り組んできたものだと思っております。

そういった中で、青山学院大学社会情報学部が、環境教育、プログラミング教育のサポートということで、相模原エコプロチャレンジ、全国で初めて市、大学、企業が連携した環境プログラミング教育というものを行っておりまして、こういったものを積極的にこれから行っていくことによって、子どもたちの思考力というか、考える力を育てていければと思います。私もかつてノジマステラの試合に行ったときに、子どもたちが作ったプログラミング教育のサッカーのゲームをやったことがあるのですが、これ、自分で作ったの、と聞いたら、自分で作ったと小学校4年生の子が言っていました。いや、おじさんにはちょっと作れないなという話をしたのですが、そうやってかなり学びの変化が進んでいるのだなと感じました。昔、携帯電話が1人1台になる時代など考えていなかったのですが、今は1人1台以上持つような時代でありますから、恐らく将来的にはこの端末機も国民1人1台が持つ時代が必ず来ると思いますし、例えば教科書のデジタル化だって、これから進んでいくのではないかなと思っています。そういった時代のニーズに合わせて、取組を進めていかないとはいけません。特に教員の皆さんの負担が多くありますので、教育委員会と連携をして、そうした先生方の学びの支援をしっかり応援をしていきたいと思っておりますし、また、誰一人取り残さないという点では、恐らく初めて端末機に触る子どももいると思うので、そういった方々に対する支援も行っていきたいと思っております。

また、不登校の児童生徒について、この臨時休校中に私が聞いたお話として、こうしたICT化が進むことによって、学校にどうしても足が遠のいていた児童生徒が、学校とやり取り、いわゆる学校とキャッチボールができるようになったというお話も伺っております。こうした取組によって、例えば児童生徒がなかなか学校に行きづらい、行きたくてもなかなか勇気が出せない子どもがいる中で、学校とつながる一つのツールがまたできたと思っておりますので、先生方ももちろん、子どもたちと向き合っていただきたいと思っております。

し、こうした形で子どもたちが学校とつながっていただければいいなと思っております。

また、先ほどお話があったように特別な支援が必要な児童生徒に対する学びに関しましても、先進的に取り組んでいきたいと思っております。これは津久井やまゆり園事件を経験してきた中、共生社会の実現の中で誰一人取り残さない、障がいの有無にかかわらず、学べる環境というものをつくっていきたいと思いますし、宇田川委員も専門的な知見を持っておりますので、また教えていただきたいと思っております。

それでは最後にいたしますが、この個別最適な学びを今後充実されるためにも、このIGAスクール構想、恐らく今年度中に整備が完了すると思っておりますが、相模原市らしい教育を進めていただきたいと思っておりますし、先ほど岩田委員からもお話があったように、やはり対面ということももちろん大事なことでありまして、AIやICTなどにより時代が変わりつつも、やはり人と人が向き合った生の温かみのある教育、これを実践しながら、新しい試みであるこのICT化、プログラミング教育や様々な取組がございますが、こうしたことにチャレンジできる相模原市の環境をつくっていきたいと思っております。また保護者の意見としまして、平岩委員からお話がありましたが、こちら恐らく、今保護者で、スマートフォンは皆さんお持ちで、そういった意味では大分ICT化が進んでいるのではないかと思いますけれども、保護者にもICT化、また改善が重要だということをお理解をいただかないといけないと思っておりますので、保護者との対話も続けていきたいと思っております。

そういうことをまとめといたしまして、私からは以上でございます。

それでは、本日は社会の変化に対応したこれからの教育についてを協議題といたしまして、新型コロナウイルス感染症への対応、そしてICTを活用した教育活動を中心に、様々な御発言を委員の皆さんからいただきましたが、皆さんからほかに御意見はございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日の全体を通してのまとめになります。コロナ禍など、社会情勢の変化によりまして、教育行政も新たな局面を迎えた中で、本市の教育が取るべき方向性、取組につきまして、皆さんと改めて共有できたと感じております。

今後も、子どもたちが「共に認め合い ^{いま} 現在と未来を創る人」となり、誰一人取り残されることなく、夢や希望を持って成長ができるよう、引き続き、教育委員会と連携しながら取組を進めてまいりたいと考えておりますので、委員の皆さんも先ほど模擬授業を受けたとか、白石委員からも小山小学校に行ったというお話もございましたし、また私も例え

ば田名中学校に行って、あじさいプロジェクトというものを知ったり、あとはランドセル寄附の取組を知ったり、中野中学校に行ったときは平和学習の一環で広島の子どもたちとICTでいろいろやり取りをしたりとか、様々な取組を学んでおりました。私たちも含めて、これから現場にもぜひ足を運んでいきたい、運んでいただきたいということをお願いいたしまして、今日のこの総合教育会議、取りまとめさせていただきました。

引き続き、教育委員会と連携しながら取組を進めてまいりますので、誰一人取り残さない、そういった子どもたちが夢や希望を持って、自己肯定感を大切にできる相模原市の教育を、これからも皆さんとつくってまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日の協議題につきましては以上となりますが、皆さんから何か発言はございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、これをもちまして本日の会議は閉会とさせていただきます。

大変お忙しい中、ありがとうございました。

閉 会

午前 11 時 31 分 閉会